



知っておきたい病気・医療

「がん」

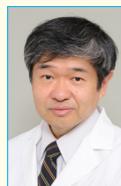
「がん」とはどんな病気？

～キーワードで知るがんの基礎知識～



早期発見・対応で がんにも備える

がん（悪性新生物）は、日本人の死因の1位ですが、病名は知っていても、どのような病気なのか、予防や治療はどのようにするのか、知らないことも多いのではないのでしょうか。もしものときのために、知っておきたい基礎知識について、国立がん研究センター がん対策研究所の若尾文彦 事業統括に伺いました。



国立がん研究センター
がん対策研究所事業統括 **若尾 文彦さん**
Adviser

1986年横浜市立大学医学部卒業。国立がんセンター病院放射線診断部レジデント、同院がん対策情報センター センター長補佐併任、同センターがん情報提供研究部長を経て、2012年よりがん対策情報センター長。2021年9月から現職。正しいがん医療情報の提供や、がん対策評価などに取り組む。

【キーワード:がんとは】

私たちの体は膨大な数の細胞がひと固まりになってできています。

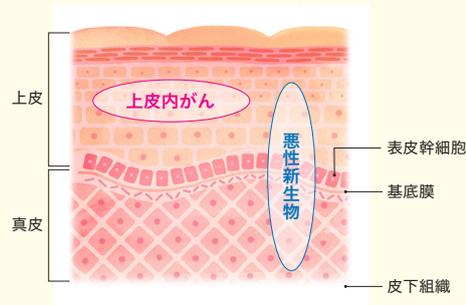
ところが何らかの要因で遺伝子に傷がつくと、細胞に異常が生じます。多くの場合は自身の免疫機能によって、異常が生じた細胞を制御しますが、中には制御をすり抜けて無秩序に増殖を続ける細胞があります。異常のある細胞がどんどん増えることで、次第に周囲に染み出すように広がったり、本来あるはずのない場所で増殖したりします。がんはこうしたメカニズムで発症する病気です。

【キーワード:上皮内がん・悪性新生物とは】

異常な細胞の増え方にも段階があります。ごく初期の段階のものは「上皮内がん」といい、体の表面や内臓の粘膜などを覆う上皮（右図）に異常な細胞がとどまっている状態です。多くは手術で取り除くことができ、転移の心配もほとんどありません。

一方で、異常な細胞が基底膜を破って周囲の細

胞に広がる「^{しんじゆん}浸潤」という状態を起こしたものを「悪性新生物」と呼びます。基底膜とは、上皮の細胞とその下にある組織や血管の境界にある薄い膜のことです。悪性新生物は血管やリンパ管に入り込み、全身に転移する可能性があります。



【キーワード:悪性腫瘍(がん)・良性腫瘍とは】

悪性腫瘍は異常な細胞が無秩序に増殖しながら、浸潤（周囲に染み出るように広がる）や転移により全身に広がっていきます。

一方、良性腫瘍の場合は比較的ゆっくりと増殖し、浸潤や転移はしません。特に症状が見られず、

治療の必要がない場合も多いですが、基となる細胞の種類や腫瘍の大きさ、発症した部位によっては症状が現れることもあります。手術で取りきることができれば、再発の心配はほとんどありません。

【キーワード:がんのステージとは】

がんの「ステージ」とは「病期」を意味するもので、がんの大きさや周囲への広がり方から、がんの進行の程度を判定した結果、進行の程度がどのくらいかを表します。

ステージは大きくI期からIV期までの4段階に分けられます。なお、上皮内がん（がん細胞が上皮内にとどまっている状態）の場合は0期とされます。さらに「がんの大きさや深さ（T）」、「周りのリンパ節転移の程度（N）」、「他の臓器への転移（M）」なども確認しながら、がんの治療方針を検討していきます。ステージの分類の仕方はがんの種類によって異なります。

【キーワード:5つのがん検診】

がんによる死亡を防ぐ最大の秘訣^{ひけつ}は、早期発見・早期治療です。そこで重要なのが定期的ながん検診です。

■国が推奨しているがん検診

検診の種類	対象年齢	検診の頻度	主な検査方法
胃がん検診	50歳以上 (当分の間、X線は40歳以上に実施可)	2年に1回 (当分の間、X線は毎年実施可)	胃のX線検査または胃内視鏡検査
大腸がん検診	40歳以上	毎年1回	便潜血検査
肺がん検診	40歳以上	毎年1回	肺のX線検査、痰(たん)の検査
乳がん検診	40歳以上	2年に1回	マンモグラフィ
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回	子宮頸部の細胞診

40歳を過ぎたら定期的に検診を受けることを心がけましょう。

また、子宮頸がんは若い世代でも発症するリスクの高いがんの一つです。20歳以上から検査を受けることが勧められているので、そうした機会を大切に早期発見・早期治療につなげましょう。

【キーワード:がんの検査】

がん検診で精密検査を受ける必要があると判定された場合（要精密検査）は、必ず、精密検査を受診してください。要精密検査と言われても、がんと決まったわけではないので、あまり心配せずに受診してください。また、何らかの異常を指摘されたり、がんの疑いが見られたりするような場合は、

速やかに医療機関を受診しましょう。

医療機関を選ぶ際には、かかりつけ医などに相談して紹介状を書いてもらったり、専門的ながん医療を手がける「がん診療連携拠点病院」「地域がん診療病院」から探したりする方法があります。

【キーワード:標準治療】

標準治療より新しい治療法が優れているというわけではありません。標準治療と最新治療には大きく次のような違いがあります。

- ・標準治療：科学的根拠に基づいた観点で、効果があることが確認された現在受けることができる治療（公的保険の対象）
- ・最新治療：科学的根拠がまだ確立されていない、実験的・研究的な治療（公的保険の対象外）

標準治療は「手術治療」「放射線治療」「薬物治療」の3つを柱とし、がんの種類や進行の具合に応じてこれらの治療を組み合わせた「集学的治療」が行われます。また近年ではがんと診断されたときから「緩和ケア」も併せておこなわれることが推進されています。

がんの治療において大切なことは、担当医とよく相談したうえで、納得できる治療法を自分自身で選択するということです。そのためにも自分のがんの状態をきちんと知り、それぞれの治療のメリット、デメリットをしっかりと確認するようにしましょう。

【キーワード:がん相談支援センター】

がんに関してさまざまな悩みや疑問が生じたりした場合には、全国のがん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」にて、誰でも無料で相談することができます。最寄りのがん相談支援センターは、下記のサイトから調べることができます。こうしたサービスを積極的に活用して、がんに対する悩みや不安の解消に役立てましょう。

■がん情報サービス

「がん診療連携拠点病院などを探す 病院一覧（全国）」
<https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/kyotenlist>

■がん情報サービスサポートセンター

<電話番号>

0570-02-3410（ナビダイヤル）、03-6706-7797

<受付時間>平日 10～15時（土日・祝日・年末年始を除く）

※相談は無料ですが、通話料は発信者の負担となります。また、一部のIP電話からは利用できません。ナビダイヤルの通話料は全国各地一律です。

